

**dB**Technologies

# VIO X series

VIO X206-60×90 / VIO X206-100×15

ウルトラコンパクト・アクティブスピーカー







取扱説明書

**VIO**<sub>X</sub> 206











## 安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

|  |  |
|--|--|
|                         | <p><b>警告</b> 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>   |
|  <p>電源プラグをコンセントから抜く</p> | <p><b>万一、異常が起きたら</b><br/>         煙が出たり、変なにおいや音がするときは<br/>         機器の内部に異物や水などが入ったときは<br/>         この機器を落とした、カバーを破損したときは<br/>         すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。<br/>         異常状態のまま使用すると、火災 / 感電の原因となります。<br/>         販売店またはティアック修理センター (巻末に記載) に修理をご依頼ください。<br/>         万一、煙が出ていたり、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。<br/>         すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。<br/>         煙が出なくなるのを確認して、販売店まで修理をご依頼下さい。</p>  |
|  <p>指示</p>              | <p><b>電源プラグにほこりをためない</b><br/>         電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災 / 感電の原因となります。<br/>         定期的 (年1回くらい) に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>   |
|  <p>禁止</p>            | <p><b>電源コードを傷つけない</b><br/>         電源コードの上に重い物を載せたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きしない<br/>         電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない<br/>         コードが傷んだまま使用すると火災 / 感電の原因となります。<br/>         万一、電源コードが破損したら (芯線の露出、断線など)、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (巻末に記載) に交換をご依頼ください。</p> <p><b>付属の電源コードを他の機器に使用しない</b><br/>         故障、火災、感電の原因となります。</p> <p><b>交流100ボルト以外の電圧で使用しない</b><br/>         この機器を使用できるのは日本国内のみです。<br/>         表示された電源電圧 (交流100ボルト) 以外の電圧で使用しないでください。<br/>         また、船舶などの直流 (DC) 電源には接続しないでください。<br/>         火災 / 感電の原因となります。</p> <p><b>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し (20 cm 以上) 離して設置する隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</b></p> <p><b>この機器の通風孔をふさがない</b><br/>         通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p><b>この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込む、または落とさない</b><br/>         火災 / 感電の原因となります。</p> <p><b>適切な器具を用いることなくスピーカーを吊り下げない</b><br/>         スピーカーのハンドル部を使って吊り下げない<br/>         落下や故障の原因となります。</p> |
|  <p>禁止</p>            | <p><b>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない</b><br/>         内部に水が入ると火災 / 感電の原因となります。</p>   |
|  <p>分解禁止</p>          | <p><b>この機器の分解を絶対に行わない</b><br/>         カバーを外す、または改造すると、火災 / 感電の原因となります。<br/>         内部の点検 / 修理は販売店またはティアック修理センター (巻末に記載) にご依頼ください。</p> <p><b>この機器を改造しない</b><br/>         火災 / 感電の原因となります。</p>   |

## 安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

|  |  |
|--|--|
|  <b>警告</b> 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。                |  |
|  <b>指示</b>  | <p>設置の際は、資格や経験を持った人（専門業者）に必ず依頼する<br/>天井や壁掛け設置、床などに設置の際は、設置場所の強度を確保する<br/>使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。<br/>天井 / 壁 / 柱 / 床などに設置する場合は、設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。</p> <p>この機器は約17kgあり重いので、開梱や持ち運びの際はけがをしないように注意する</p>  |
|  <b>注意</b> 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。 |  |
|  <b>電源プラグをコンセントから抜く</b>   | <p>移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す<br/>コードが傷つき、火災 / 感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く<br/>通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。</p>  |
|  <b>指示</b>  | <p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明にしたがって接続する<br/>また、接続は指定のコードを使用する</p> <p>電源を入れる前には、音量を最小にする<br/>突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする<br/>異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。</p> <p>この機器には、付属の電源コードを使用する<br/>それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。</p> |
|  <b>禁止</b>  | <p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない<br/>湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない<br/>調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない<br/>火災 / 感電やけがの原因となる場合があります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない<br/>コードが傷つき、火災 / 感電の原因となる場合があります。<br/>必ずプラグを持って抜いてください。</p>   |
|  <b>禁止</b>  | <p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししない<br/>感電の原因となる場合があります。</p>   |
|  <b>注意</b>  | <p>5年に1度は、機器内部の掃除をお買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご相談ください。<br/>内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。<br/>特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。</p>  |

## 目次

|  |    |
|--|----|
| 安全にお使いいただくために.....                             | 2  |
| はじめに.....                                      | 4  |
| 本製品の構成.....                                    | 4  |
| 本書の表記.....                                     | 4  |
| ユーザー登録について.....                                | 5  |
| 別売りアクセサリーについて.....                             | 5  |
| 設置上の注意.....                                    | 5  |
| 結露について.....                                    | 5  |
| 製品のお手入れ.....                                   | 5  |
| アフターサービス.....                                  | 5  |
| 商標および著作権に関して.....                              | 5  |
| 本機の概要.....                                     | 6  |
| 主な特徴 ( VIO X206-60×90、VIO X206-100×15 共通)..... | 6  |
| 各部の名称.....                                     | 7  |
| 電源パネル.....                                     | 7  |
| コントロールパネル.....                                 | 7  |
| 電源および外部機器との接続.....                             | 8  |
| 電源と電源リンクの接続.....                               | 8  |
| オーディオ信号の接続.....                                | 9  |
| 適合ケーブル.....                                    | 9  |
| RDNet の接続.....                                 | 9  |
| Attenuation ( 入力感度調節ボリューム ).....               | 9  |
| 設置方法.....                                      | 10 |
| 設置と構成.....                                     | 10 |
| フライバーを使用した取り付け例 -1.....                        | 10 |
| フライバーを使用した取り付け例 -2.....                        | 11 |
| フライバーを使用した取り付け例 -3.....                        | 11 |
| スタック設置例 -1.....                                | 11 |
| スタック設置例 -2.....                                | 11 |
| ポイントソース・スピーカーの設置例.....                         | 12 |
| ポイントソース / ラインアレイスピーカーの変換例.....                 | 12 |
| 音響シミュレーションプログラムについて.....                       | 12 |
| システム設定ファイル (*.GLL) のダウンロード.....                | 12 |
| リモートコントロール.....                                | 13 |
| 各種ダウンロード.....                                  | 14 |
| ソフトウェアの使用に関して.....                             | 14 |
| F/W アップデート.....                                | 14 |
| AURORA NET ソフトウェアのダウンロード.....                  | 14 |
| リモート機器の取扱説明書ダウンロード先.....                       | 15 |
| アクセサリーのダウンロード先.....                            | 15 |
| 別売りアクセサリー.....                                 | 15 |
| トラブルシューティング.....                               | 16 |
| 仕様.....  | 17 |
| 一般.....  | 17 |
| 寸法図.....                                       | 18 |

## はじめに

このたびは、dBTechnologies VIO X シリーズをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになったあとは、本書をいつでも見られるところに保管してください。

- 取扱説明書 ( 日本語 ) は、TASCAM のウェブサイトからダウンロードすることができます。

- VIO X206-60×90

[https://tascam.jp/jp/product/vio\\_x206-60x90/top](https://tascam.jp/jp/product/vio_x206-60x90/top)

- VIO X206-100×15

[https://tascam.jp/jp/product/vio\\_x206-100x15/top](https://tascam.jp/jp/product/vio_x206-100x15/top)

- 最新版の取扱説明書 ( 英語 ) については、dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、"VIO X" の項目を選択し、上段 "Manuals" の列から対象となる PDF ファイルをダウンロードしてください。

<https://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

## 本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- スピーカー本体.....×1
- Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付電源コード.....×1  
( 定格 : 電圧 125 V / 電流 15 A )
- 取扱説明書 ( 本書、保証書付き ).....×1

## 本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン / 端子などを「**POWER**」のように太字で表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

### ヒント

本機を、このように使うことができる、といったヒントを記載します。

### メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

### 注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

---

## ユーザー登録について

---

dBTechnologies の下記ウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

<https://www.dbtechnologies.com/en/support/register/>

- 各種ソフトウェア、および F/W アップデーターをダウンロードする場合、ユーザー登録が必要になります。

---

## 別売りアクセサリーについて

---

設置、または輸送や本体保護のために別売アクセサリーがご使用になれます。

別売りアクセサリーについては、15 ページ "別売りアクセサリー" および下記 dBTechnologies のウェブサイトをご参照してください。

<https://www.dbtechnologies.com/it/prodotti/vio-x/vio-x206/>

---

## 設置上の注意

---

- 設置は、資格や経験を持った人 (専門業者) が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 次のような場所に設置しないでください。音質低下の原因、または故障の原因となります。
  - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
  - 極端に温度が低い場所
  - 湿気の多い場所や風通しが悪い場所。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- 熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機の近くに大型トランスを持つ機器がある場合にハム (うなり) を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くで本機を動作させると、テレビ画面に色むらが出る、またはラジオからの雑音が出ることがあります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発進時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。
- 本製品を使用する国の法律、および安全規格を遵守してください。また、安全に使用するため、使用前に定期的に全てのパーツが正常な状態であることを確認してください。
- AEB Industriale 社およびティアック株式会社は、適切な安全対策が施されていない不適切な設置に対して責任を負いません。

---

## 結露について

---

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1~2時間放置してから電源を入れてお使いください。

---

## 製品のお手入れ

---

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。

化学雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

---

## アフターサービス

---

- この製品には、保証書が添付 (巻末に記載) されています。大切に保管してください。万が一お買い上げの販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無料修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店・ご購入日が確認できる物を一緒に保管してください。
  - 保証期間はお買い上げ日より1年です。保証期間中は、保証書に記載の無料修理規定によりティアック修理センター (巻末に記載) が無料修理致します。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
  - 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理については、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (巻末に記載) にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
  - 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (巻末に記載) までご連絡ください。
  - 修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害 (録音内容などの補償) の責については、ご容赦ください。
    - 型名、型番 (VIO X206-###)\*
    - 製造番号 (Serial No.)
    - 故障の症状 (できるだけ詳しく)
    - お買い上げ年月日
    - お買い上げ販売店名
  - お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
  - 本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。
- \* ご使用中の [VIO X206-60×90 / VIO X206-100×15] いずれかの型名をお知らせください。

---

## 商標および著作権に関して

---

- TASCAM およびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vista および Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apple、Mac、macOS、iOS、iPad、iPadOS および App Store は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。iPhone の商標は、アイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。
- Neutrik および etherCON は、Neutrik AG の登録商標です。また、powerCON および TRUE1 は、Neutrik AG の商標です。
- Digipro は AEB INDUSTRIALE SRL の商標です。
- dBTechnologies は A.E.B Industriale SRL のそれぞれの国における商標または登録商標です。
- EASE® is a registered trademark of AFMG Technologies GmbH.
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。



## 本機の概要

dBTechnologies VIO X206-60×90 および VIO X206-100×15 は、屋内外でのライブ用途における音響システムの新しいコンセプトの先駆けとなる製品です。

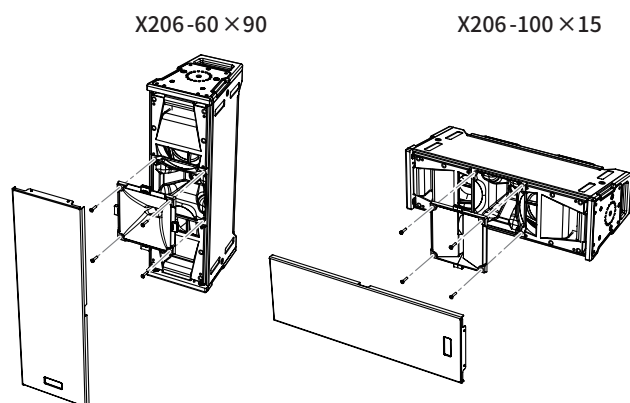
簡単な操作でフルレンジ・ポイントソース・スピーカー (VIO X206-60×90)、またはラインアレイ・スピーカー (VIO X206-100×15) として使い分けることが可能です。

### 主な特徴 (VIO X206-60×90、VIO X206-100×15 共通)

- ホーン、またはウェーブガイドによるサウンドデザイン (モデルによって異なります。)
- 組込型の固定ポイントと、用途に応じたアクセサリ類  
別売りアクセサリについては、15 ページ "別売りアクセサリ"、および15 ページ "アクセサリのダウンロード先" を参照してください。
- 最大 SPL131 dB、実用最大出力1800 W/RMS 出力 900 W(\*1) を実現するクラス D の Digipro G3 アンプを搭載し、32ビット DSP によるコントロールが可能
- カバレッジのタイプが異なる2種類をご用意しています。
  - VIO X206-60×90 はホーンを搭載しており、水平 [60°]×垂直 [90°] の分散が可能です。
  - VIO X206-100×15 は、水平 [100°]×垂直 [15°] の分散を実現するウェーブガイドを搭載し、ラインアレイモードでの運用が可能です。

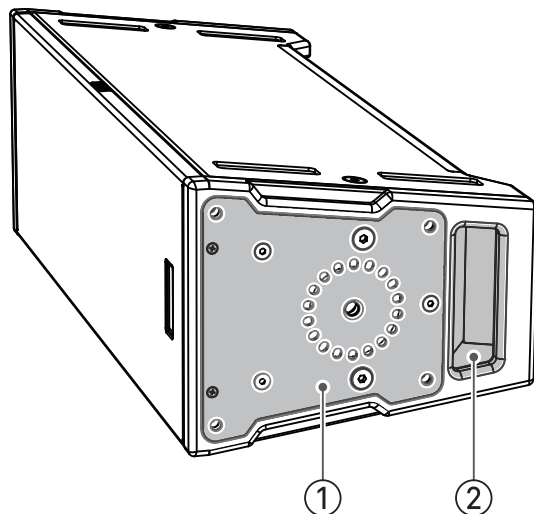
モニター用途や横置き (ウォールマウント時) では、これらの数値を参考にして適切なカバレッジが得られるようにしてください。

- スピーカー形状、ユニット配置の念入な設計により音響特性が最適化されており、非常にワイドな周波数帯域において音響精度を確保するために様々な対策が、スピーカー内部に施されています。特に、ホーン (VIO X206-60×90) やウェーブガイド (VIO X206-100×15) による放射干渉を最適化する特徴的なフロントパネルを採用しています。

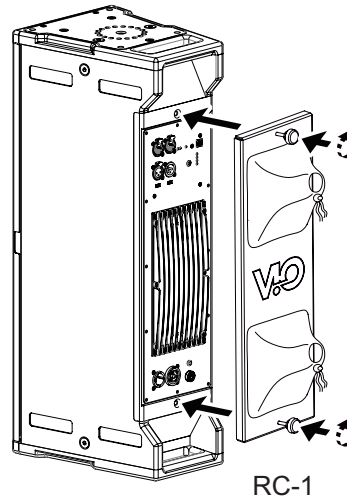


- 一対の入出力端子 (XLR 端子) には、バランスアナログ信号による他の音源 (ミキサーなど) や、デジチェーン接続で繋いだ他のスピーカーからの入力が可能です。また、本機から他のスピーカーへデジチェーン接続による出力が可能です。
- RDNet 接続 (\*2) によって、パソコンからのリモートコントロールが可能となり、コントロールソフトウェア dBTechnologies AURORA NET 経由で、使用環境に応じたカスタマイズや PA システムのオンタイムなモニタリングも可能です。  
また、AFMG Technologies 社製 EASE FOCUS 3 (フリーウェア) の音響シミュレーションプログラム (Windows 対応のみ) にも対応しています。  
(12 ページ "音響シミュレーションプログラムについて" を参照)

- 迅速なラインアレイ設置が可能なデザインは、次のような特長を備えています。(下図参照)



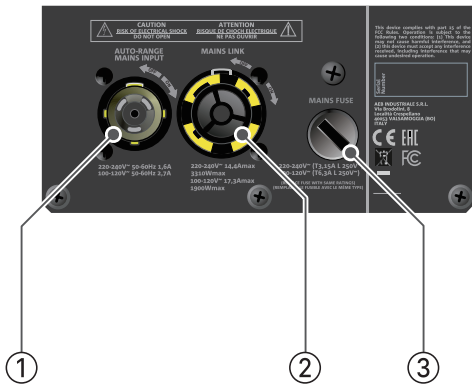
- ① 本体に組み込まれた固定ポイント (\*3)  
ラインアレイ用のリンクブラケット、またはポールマウントアダプターなどの各種アクセサリ類に対応した固定ポイント
  - ② リア側に設置されたハンドル  
設置や移動の際に本機を安全・安定した運搬が可能です。
- 屋外使用時に背面にあるアンプ部を雨から防ぐ、別売りのレインカバー RC-1 (\*4) も取り付け可能です。



- \* 1: AC100V 時での値になります。
- \* 2: 別売りのリモート機器 [RDNet Control 2] または [RDNet Control 8] が必要になります。  
詳細は、リモート機器の取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。(15 ページ "リモート機器の取扱説明書ダウンロード先" を参照)
- \* 3: 各種ブラケット類については、15 ページ "別売りアクセサリ"、および15 ページ "アクセサリのダウンロード先" を参照してください。
- \* 4: 各種カバー類については、15 ページ "別売りアクセサリ"、および15 ページ "アクセサリのダウンロード先" を参照してください。

## 各部の名称

### 電源パネル



#### ① AUTO-RANGE MAINS INPUT

AC 電源端子 (Neutrik 社製 powerCON TRUE1 端子)  
付属の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付電源コードを接続します。  
電源コードを接続して、プラグ端子を時計回りに回転させると  
端子がロックして、電源が入ります。

#### 注意

- 電源を入れる前に必ず、本機の **Attenuation** (入力感度調節ボリューム) ⑬ のレベルが [mute] の位置にあること、また音源側の機器は音声出力を行っていない、または音量が最小であることを確認して下さい。
- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

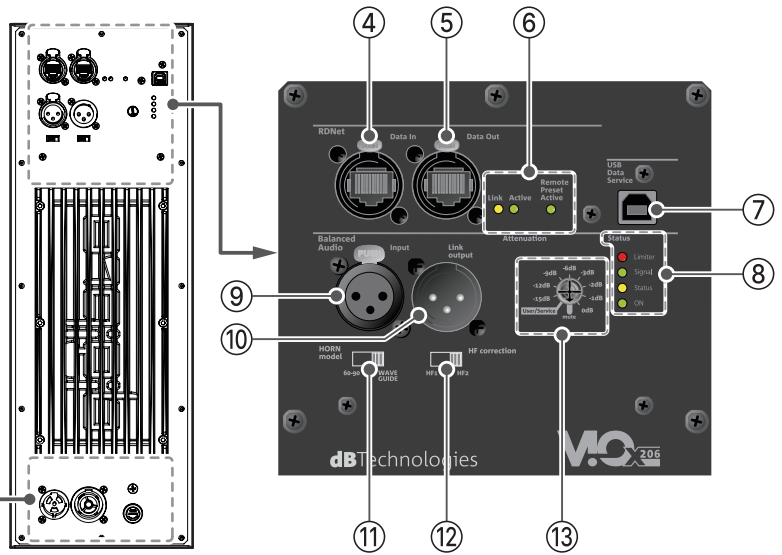
#### ② MAINS LINK

電源リンク端子 (Neutrik 社製 powerCON TRUE1 端子)  
他のサブウーファーやアクティブスピーカーなどに電源を供給する端子です。  
電源 LINK ケーブルを接続して、プラグ端子を時計回りに回転させると端子がロックして、電源が入ります。  
ご使用時は、別売りの専用 Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付 LINK ケーブルをお使いください。

#### 注意

- 専用の電源 LINK ケーブル以外の接続で、他のアクティブスピーカーなどに電源供給を絶対に行わないでください。その場合、感電および機器を破損する恐れがあります
- Neutrik 社製のケーブルについては、タスカム カスタマーサポート (巻末に記載) にご相談ください。
- 指定の台数を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

### コントロールパネル



#### ③ MAINS FUSE

フューズホルダー  
万一、動作しなくなった場合は、電源コードを抜いてティアック修理センター (巻末に記載) にご相談ください。

#### ④ RDNet Data In (etherCON 端子)

データネットワーク接続の入力用端子 (Neutrik 社製)  
別売りのネットワークコントローラー **RDNet Control 2** または **RDNet Control 8** に接続します。  
また、他の **RDNet** 対応スピーカーからデジチェーン接続 (\*) の入力として使用します。  
\* 別売りの RJ45-RJ45 リンクケーブルが必要です。  
RJ45-RJ45 リンクケーブルの仕様は、15 ページ "アクセサリのダウンロード先" を参照してください。

#### ⑤ RDNet Data Out (etherCON 端子)

データネットワーク接続の出力用端子 (Neutrik 社製)  
本機を複数台設置するスピーカー構成で、他の **RDNet** 対応スピーカーにデジチェーン接続の出力として使用します。

#### ⑥ コントロール LED

**RDNet** ネットワーク関連のステータス LED です。

- **Link LED** (黄色)  
**RDNet** ネットワークがアクティブの場合に点灯します。
- **Active LED** (緑色)  
**RDNet** ネットワーク上でデータ通信を行っている際、点滅します。
- **Remote Preset Active LED** (緑色)  
本機が **RDNet** ネットワーク上で、制御 (リモートコントロール) されている場合に点灯します。

**RDNet** ネットワークの使用の詳細は、15 ページ "リモート機器の取扱説明書ダウンロード先" を参照してください。

#### ⑦ USB Data Service

サービスデータ 端子 (USB B タイプ)  
本機の F/W をアップデートする際、使用します。  
F/W のダウンロード方法は、14 ページ "F/W アップデート" を参照してください。

## ⑧ Status LED

### ● Limiter LED (赤色)

入力信号の歪み音や他の不具合で内部リミッターが作動した場合に点灯します。

(本機の不具合で停止した場合は、点滅します。)

これは、アンプ回路が信号の歪みを防ぎ、ユニットが過負荷になるのを防ぎます。

### 注意

Limiter LED が連続して点灯した状態は、入力信号の歪み音を伴う、過度の負荷がかかっている状態を示しています。そのままの状態、長時間連続使用しないでください。その場合、機器が壊れたりする原因となります。

### ● Signal LED (緑色)

オーディオ信号が入力されている時に点滅し、適正な入力信号時のみ点灯します。

その他の不具合で停止した場合は、消灯します。

### ● Status LED (黄色)

電源投入時に数秒間点灯し、正常な状態で動作している時は消灯しています。

アンプ内部の温度をモニターし、オーバーヒートの保護回路が作動した場合、**Status LED** が点滅することで知らせます。適正な内部温度になってから、音量と全ての機能は元通りに復帰し、消灯します。

その他の不具合で停止した場合は、点灯します。

### ● ON (緑色)

正常に状態で動作している時、またはその他の不具合で点灯します。

本機の不具合で停止した場合は、消灯します。

## ⑨ Balanced Audio Input (XLR バランス入力端子)

XLR 端子によるアナログバランス入力端子で、ミキサーや他のスピーカー (音源) のバランス信号入力が可能です。

### 注意

電源を入れる前には、音源側の機器は音声出力を行わない、または音量を最小にして下さい。

## ⑩ Balanced Audio Link Output (XLR バランス出力端子)

XLR 端子によるアナログバランス出力端子で、本機を複数台設置する際にデジチェーン構成で出力するオーディオ信号の接続や他のアンプ内蔵スピーカーにオーディオ信号を出力する際に使用します。

## ⑪ HORN model (ホーンモードスイッチ)

本機の音響特性をポイントソース、またはラインアレイ構成に応じて、このスイッチを切り換えます。

VIO X206-60×90は、[60-90] 側、VIO X206-100×15は、[WAVE GUIDE] 側に設定してください。

## ⑫ HF correction (高域補正スイッチ)

ポイントソースとラインアレイの両方で、距離に応じて必要な音響補正 (特に高域) を最適化することができます。

距離が近い場合は **HF1**、遠い場合は **HF2** に設定してください。

## ⑬ Attenuation (入力感度調節ボリューム)

アンプ部に入力する信号の感度 (9種類) を調整します。電源を投入する前は必ず、[mute] の位置に設定してください。

- 調整範囲: mute、0、-1、-2、-3、-6、-9、-12、-15 dB

(9 ページ "Attenuation (入力感度調節ボリューム)" を参照)

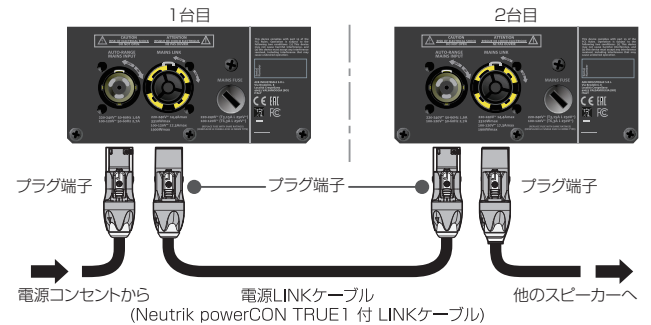
また、[User/Service] の位置は、パソコンに直接 USB 接続してファームウェアのアップデートを行う場合に使います。

(14 ページ "F/W アップデート" を参照)

## 電源および外部機器との接続

本機は、電源とオーディオ信号を1台目のスピーカーから、2台目以降のスピーカーにデジチェーン接続で供給することができます。

### 電源と電源リンクの接続



### 電源の接続

本機の **AUTO-RANGE MAINS INPUT** ① (AC 電源 端子) に付属の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付電源コードを接続し、時計回りにプラグ端子を回転させて、ロックしてください。

ロックされると電源が入ります。また、電源を落とす場合は、逆の手順で取り外してください。

### 注意

- 電源を入れる前に必ず、本機の **Attenuation** ⑬ (入力感度調節ボリューム) のレベルが [mute] の位置にあること、また音源側の機器は音声出力を行っていない、または音量が最小であることを確認して下さい。
- 電源コードは必ず、付属の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付電源コードをご使用ください。また、電源 LINK ケーブルも必ず、Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付 LINK ケーブル (別売り) をお買い求めの上、ご使用ください。それ以外のコードやケーブルを使用すると感電およびスピーカーの動作に影響する場合があります。(弊社は、不適切なケーブルやコード類またはアクセサリの使用もしくは追加による損傷に対していかなる責任も負いません。)
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたコードやケーブルは、新しいものと交換してください。
- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 濡れた手または、機器や電源コード (または電源 LINK ケーブル) が濡れた状態で、絶対に電源コードやケーブルの接続や取り外しをしないでください。感電および機器を破損する恐れがあります。

### 電源リンクの接続

- **MAINS LINK** ② (電源 Link 端子) は、1台目から2台目に Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付 LINK ケーブル (別売り) を使って、デジチェーン接続が可能です。

- まず、1台目の本機の **AUTO-RANGE MAINS INPUT** ① に、付属の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付電源コードを前述の「電源の接続」の方法で接続し、その片側を電源コンセントに接続します。

- 次に、Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付 LINK ケーブル (別売り) で、1台目の **MAINS LINK** ② と2台目の **AUTO-RANGE MAINS INPUT** ① に接続します。

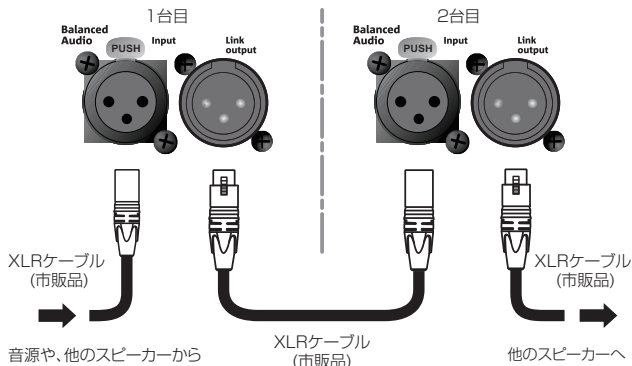
上記の接続を繰り返し、1台目の **MAINS LINK** ② の下側に記載された最大供給電流に達するまで、2台目のスピーカーを接続することが可能です。



## オーディオ信号の接続

同一音源を2台以上のスピーカーに接続する場合、1台目から2台目に送出することができます。

- 音源機器からオーディオ信号を1台目の **Input** ⑨ に接続した後、バランス XLR ケーブルを使って、1台目の **Link Output** ⑩ と2台目の **Input** ⑨ に接続します。



上記の接続を繰り返すことで、以降のスピーカーを接続することができ、スピーカー構成に沿ったデジチェーン接続が可能です。

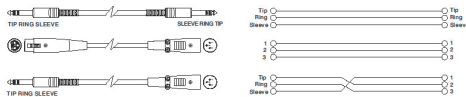
### 注意

- 電源を入れる前には、音源側の機器は音声出力を行わない、または音量を最小にして下さい。
- 入力機器のケーブルの接続や取り外しは必ず、本機の電源を切り、電源コードを全て外した状態で行ってください。

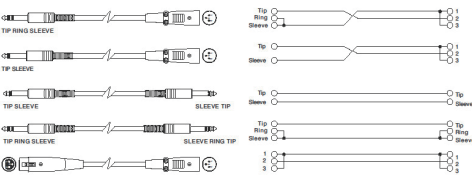
## 適合ケーブル

本機に適合するオーディオケーブルには、以下のタイプがあります。

### バランスケーブル



### アンバランスケーブル



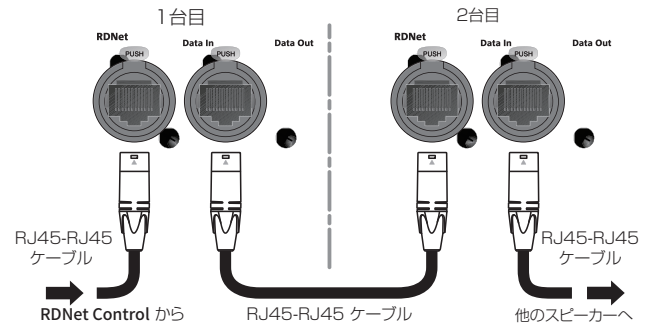
### 注意

- ケーブルの接続や取り外しは必ず、電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。
- 不完全なケーブルの使用、認証されていないケーブルの使用、およびシステム構成や使用する国の規格に適合しないコードまたは、ケーブルの使用による責任を負いません。

## RDNet の接続

本機を RDNet 接続でリモート操作を行う場合、**Attenuation** ⑬ の位置を [Service/User] の位置にセットします。

- 別売りのネットワークコントローラー (RDNet Control 2 や RDNet Control 8) を使用して、制御したいスピーカーの **Data In** 端子 ④ にネットワークコントローラーからの別売りの RJ45-RJ45 ケーブル (\*) を接続します。
- RDNet 接続で複数機を制御する場合、1台目の **Data Out** 端子 ⑤ から2台目の **Data In** 端子 ④ に別売りの RJ45-RJ45 ケーブル (\*) で接続します。
- \* RJ45-RJ45 ケーブルの仕様は、15 ページ "アクセサリーのダウンロード先" を参照してください。



この接続を繰り返すことで、接続されたスピーカーを制御することができます。

同様に複数のスピーカー構成がある場合、制御できるスピーカーの最大数は下記となります。

- RDNet Control 2 : 1 ch/32 台 × 2 ch 最大64 台
- RDNet Control 8 : 1 ch/32 台 × 8 ch 最大256 台

RDNet ネットワーク上に接続した機器が認識された場合、コントロール LED ⑥ の Link LED (黄色) が点灯します。

RDNet ネットワークの使用の詳細は、15 ページ "リモート機器の取扱説明書ダウンロード先" を参照してください。

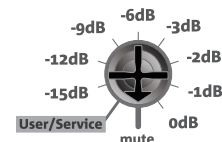
## Attenuation (入力感度調節ボリューム)

10ポジションのロータリーつまみで、あらかじめ設定された下記の中から減衰量を選択できます。

- 0、-1、-2、-3、-6、-9、-12、-15 dB、mute

選択するには、小さなマイナスドライバーを使って減衰量に合わせてください。

MUTE ポジションでは、スピーカーをミュート (消音) します。



[User/Service] の位置は、パソコンに直接 USB 接続してファームウェアのアップデート (\*) を行う場合に使います。

- \* F/W の更新については、14 ページ "F/W アップデート" を参照してください。

### メモ

本機をネットワーク接続で制御をする場合、Attenuation の設定は、ネットワークでの設定が優先されます。(スピーカー単体でのローカル設定は、使用されません。)

## 設置方法

電源を入れる前に、必ず、本機背面の **Attenuation** ⑬ (入力感度調節ボリューム) の位置が **[mute]** であることを確認してください。

また、本機に接続している音源側の機器は音声出力を行っていない、または音量も最小にして下さい。

- 各端子類や操作部については、7 ページ "各部の名称" を参照してください。
- 電源コードの接続方法については、8 ページ "電源と電源リンクの接続" を参照してください。
- 各ケーブルの接続方法については、9 ページ "オーディオ信号の接続"、9 ページ "RDNet の接続" を参照してください。

### 注意

ここで紹介する設置方法以外で、絶対に設置しないでください。指示を守らない場合、人がけがをしたり、機器が壊れたりする原因となります。

- 設計・計算・設置・テスト・メンテナンスは、資格や経験を持った人 (専門業者) が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)
- 本体のハンドルや本体ブラケットを使って本機器を吊るさないでください。
- 別売りアクセサリを安全にお使い頂くために、使用前など定期的にしっかりと固定・組み立てられているかチェックしてください。(弊社は、不適切なアクセサリの使用、または追加による損傷に対していかなる責任も負いません。)

別売りアクセサリについては、15 ページ "別売りアクセサリ"、および15 ページ "アクセサリのダウンロード先" を参照してください。

- スピーカーは、必ず安定した場所に確実に設置してください。
- 安全上の理由により、適切な固定方法を用いることなくスピーカーを重ねて設置しないでください。
- スピーカーを吊り下げる場合は、すべての部品をチェックし、ダメージ・変形・歪み・欠落がないか確認し、設置中の安全に問題がないことを確認してください。
- 本製品を使用する国の法律、および安全規格を遵守してください。また、安全に使用するため、使用前に定期的に全てのパーツが正常な状態であることを確認してください。
- AEB Industriale 社およびティアック株式会社は、適切な安全対策が施されていない不適切な設置に対して責任を負いません。

## 設置と構成

本機は、別売りの吊り下げフレーム (以降、"フライバー" と称します) を使って、ラインアレイまたはスタック構成が可能です。

フライバーを使用することで、より大きなカバレッジを構成することができます。

### メモ

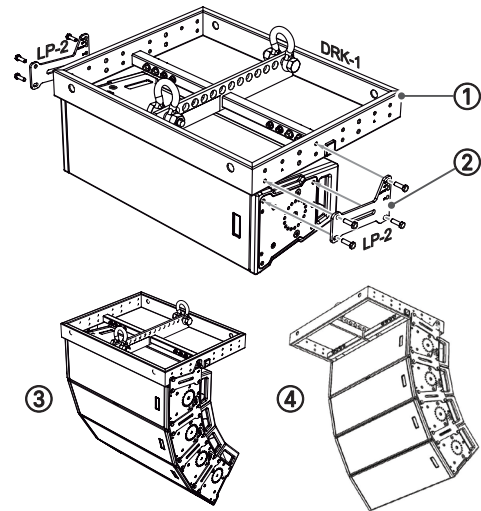
本文中に出てくるフライバーやブラケットなどのアクセサリ類については、別売りになります。

### 注意

主な安全規格に基づくフライング構成、またはスタック構成の最大接続台数は、フライバー本体のラベル、および各アクセサリの取扱説明書に記載されています。

### フライバーを使用した取り付け例-1

VIO X206-100×15 は、フライバー DRK-1 と LP-2 リンクアレイブラケットを使って、ラインアレイ構成 (ポジティブ、またはネガティブ角度) が可能です。



#### ① フライバー DRK-1

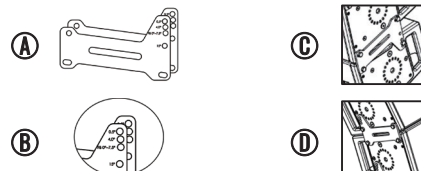
このフレームを使用して、ラインアレイまたはサブウーファースタック構成が可能です。

#### ② LP-2 リンクアレイブラケット

このブラケットを使用して VIO X206-100×15 を最大8台までのラインアレイ構成が可能です。

また、VIO X206-100×15 を下記4種類の角度で、連結可能です。

- 0.5°、4°、0-7.5°、15°



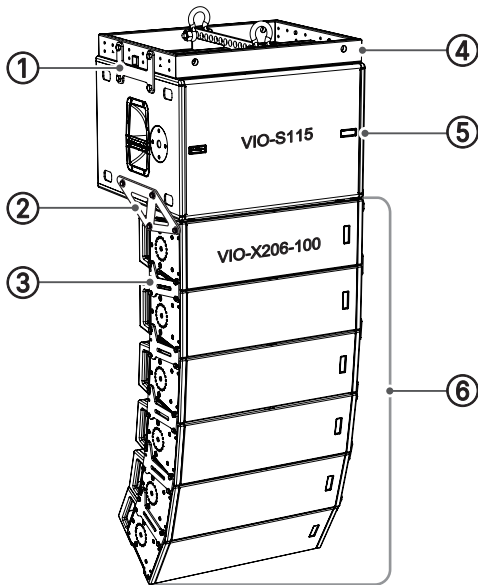
- ① LP-2 リンクアレイブラケット本体 (2枚セット)
- ② 取り付け角度
- ③ 取り付け角度の例: 4°
- ④ 取り付け角度の例: 15°

#### ③ ポジティブ角度のラインアレイ構成

#### ④ ネガティブ角度のラインアレイ構成

## フライバーを使用した取り付け例 -2

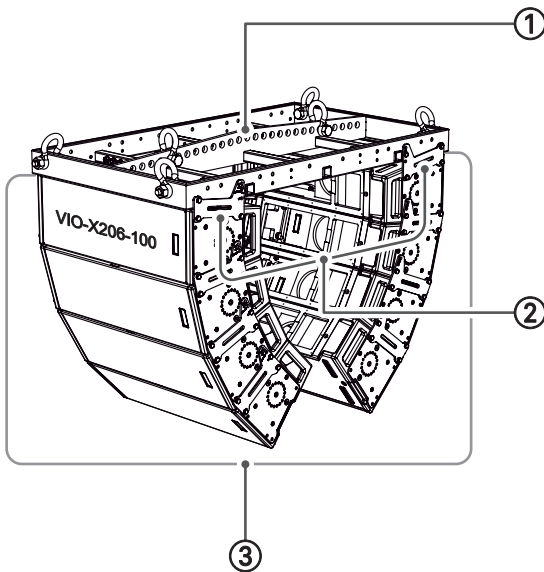
フライバー DRK-1とLP-4リンクプレートとLP-2リンクアレイブラケット、またはLP-5リンクプレートを介して、VIO S115とVIO X206-100×15 (ラインアレイ構成) を接続することが可能です。



- ① LP-4リンクプレート
- ② LP-5リンクプレート
- ③ LP-2リンクアレイブラケット
- ④ フライバー DRK-1
- ⑤ VIO S115 アクティブサブウーファー
- ⑥ VIO X206-100×15 (ラインアレイ構成)

## フライバーを使用した取り付け例 -3

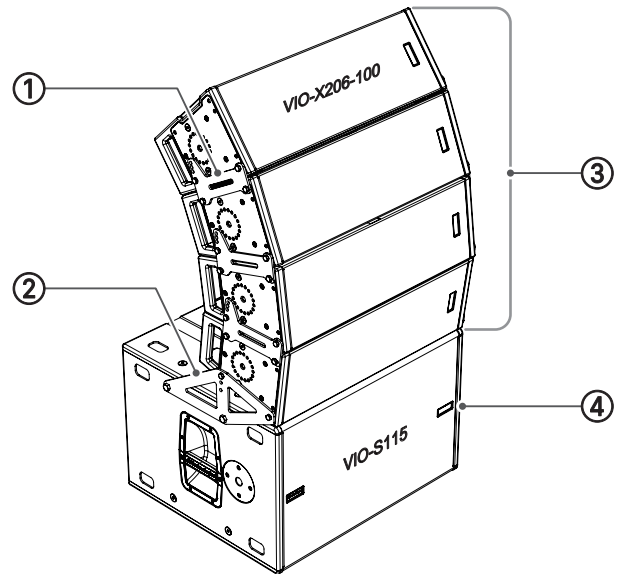
フライバー DRK-2とLP-2リンクアレイブラケットを介して、VIO X206-100×15 (ラインアレイ構成) を接続することが可能です。



- ① フライバー DRK-2
- ② LP-2リンクアレイブラケット
- ③ VIO X206-100×15 (ラインアレイ構成)

## スタック設置例 -1

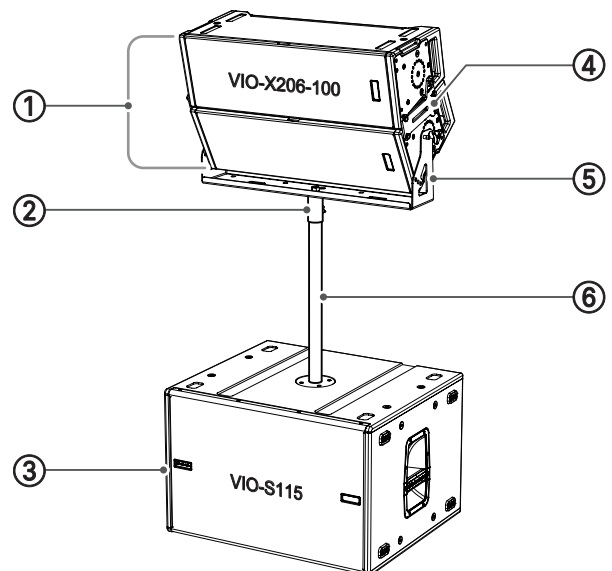
LP-5リンクプレートとLP-2リンクアレイブラケットを介して、VIO S115とVIO X206-100×15 (ラインアレイ構成) を接続することが可能です。



- ① LP-2リンクアレイブラケット
- ② LP-5リンクプレート
- ③ VIO X206-100×15 (ラインアレイ構成)
- ④ VIO S115 アクティブサブウーファー

## スタック設置例 -2

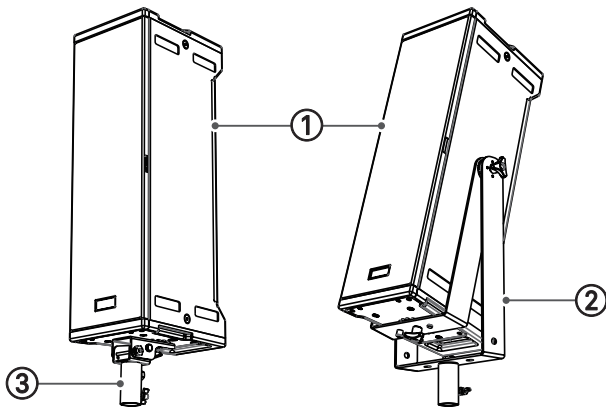
HB-2×6水平取付ブラケットとLP-2リンクアレイブラケット、およびSA-2×6ポールマウントアダプターとディスタンスポールを介して、VIO S115とVIO X206-100×15 (ラインアレイ構成) を接続することが可能です。



- ① VIO X206-100×15 (ラインアレイ構成)
- ② SA-2×6ポールマウントアダプター
- ③ VIO S115 アクティブサブウーファー
- ④ LP-2リンクアレイブラケット
- ⑤ HB-2×6水平取付ブラケット
- ⑥ ディスタンスポール (径35mm/M20 ネジ付き)

## ポイントソース・スピーカーの設置例

VB-2×6垂直取付ブラケット、またはSA-2×6ポールマウントアダプターを使用することで、スピーカーを縦置き設置することが可能です。



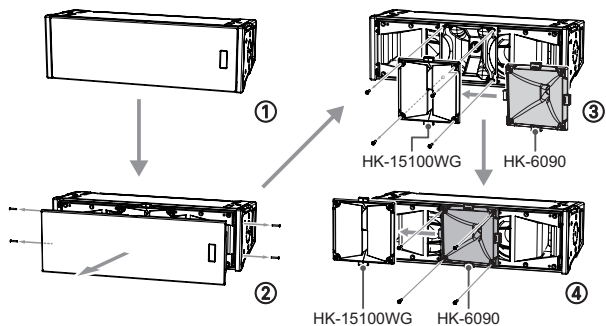
- ① VIO X206-60×90、または VIO X206-100×15
- ② VB-2×6垂直取付ブラケット
- ③ SA-2×6ポールマウントアダプター

## ポイントソース / ラインアレイスピーカーの変換例

専用アクセサリを使用すると、ウェーブタイプのスピーカーをホーンタイプのスピーカーに変換、またはその逆のタイプにも変換も可能です。

- ウェーブタイプ: HK-15100WG
- ホーンタイプ (水平 [60°]× 垂直 [90°]): HK-6090

交換手順は下図を参考にしてください。



- ① VIO X206-60×90または VIO X206-100×15
- ② フロントのネジ4本を外して、フロントグリルを外します。
- ③ キャビネットからネジ4本を外して、HK-15100WG を取り外します。
- ④ HK-6090 に交換して、ネジ4本でキャビネットに取り付けます。取り付け完了後にズレやガタ音が発生していないことを確認して、取り外したフロントグリルを取り付けます。

## 音響シミュレーションプログラムについて

本製品を安全に設置・設定するために、AFMG Technologies 社製 **EASE FOCUS 3** (フリーウェア) の音響シミュレーションプログラム (Windows 対応のみ) を併用されることをお勧めします。

このソフトウェアを使用すると、狙ったカバレッジを実現するためのラインアレイ構成のモジュール角度の解析や、選択したエリアに合わせたラインアレイ構成のシステム設定が行えます。

また、設置の安全性を確認するためのツールとしても有効で、吊り下げフレーム (DRK-1、または DRK-2) の静的動作をシミュレートすることで効率的に、耐荷重制限内での取付け可能なモジュールの数をあらかじめ確認することができ、ラインアレイ モジュール設置の安全性を確認できます。

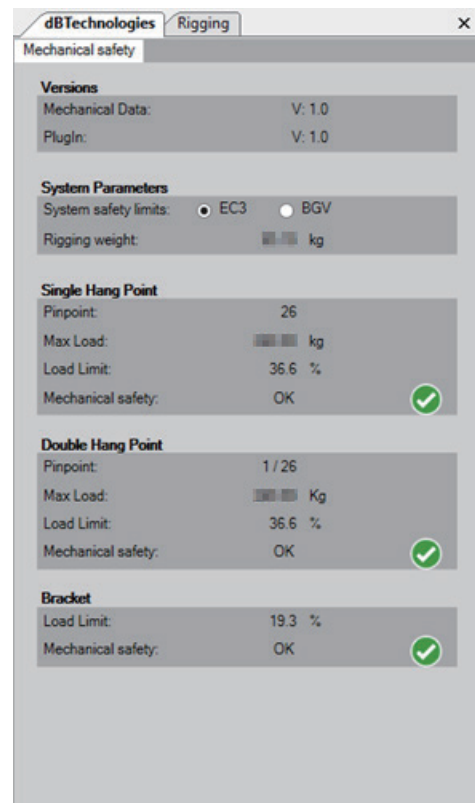
必要なメカニカルな安全性のチェックやプラグインにも対応した **EASE FOCUS 3** 用に作成されたシステム設定ファイル (\*.GLL) を用意しています。

## システム設定ファイル (\*.GLL) のダウンロード

dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、"VIO X" の項目を選択して、上段 "GLL" の列から対象となるファイルをダウンロードしてください。

- <https://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

シミュレーションファイル (\*.GLL) がプロジェクトに読み込まれると、安全な構成と各スピーカー / サブウーファーの位置決めガイドが案内され、最適な音響カバレッジを実現するスピーカーシステムのセットアップが可能です。



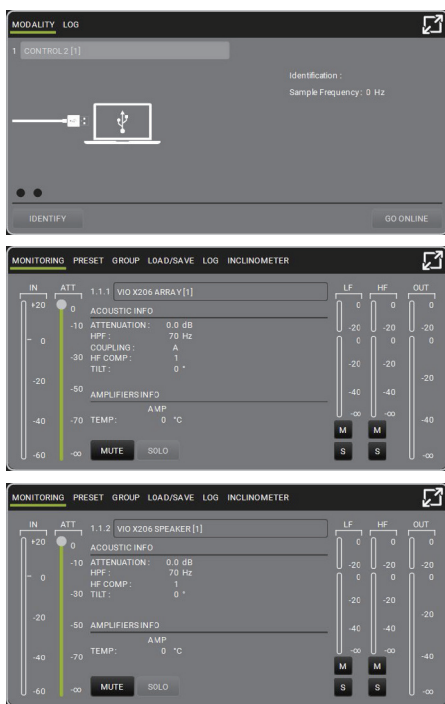
- ソフトウェアの使用に関して  
本ソフトウェアは、AFMG Technologies GmbH に帰属し、使用に際しては、同社の定める使用許諾条件によります。



## リモートコントロール

無料の AURORANET ソフトウェアを使用して、RDNet 接続による本機のパラメーターをリモートコントロールで設定可能です。

- パラメーター設定は、RDNet 接続が正しく行われた後、AURORANET ソフトウェアを使用することで、本機で設定するよりも、多くのパラメーターをリモートコントロールで設定できます。
- RDNet と AURORANET ソフトウェアによるリモートコントロールの場合、本機のローカル設定はバイパスされ、AURORANET ソフトウェアによってすべて制御されます。



AURORANET ソフトウェア画面

- AURORANET ソフトウェアの入手方法の詳細は、14 ページ "AURORA NET ソフトウェアのダウンロード" を参照してください。
- 取扱説明書 (日本語) は、以下の TASCAM のウェブサイトからダウンロードすることができます。  
[https://tascam.jp/jp/product/dbtechnologies\\_aurora\\_net/top](https://tascam.jp/jp/product/dbtechnologies_aurora_net/top)
- 最新版の取扱説明書 (英語) については、dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、"Software & Controller" の項目を選択して、上段の "Manuals" の列から対象となる PDF ファイルをダウンロードしてください。  
<https://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

### 注意

本機をネットワーク接続で制御をする場合、入力感度調整/DSP等の設定は、ネットワークでの設定が優先されます。(スピーカー単体でのローカル設定は、使用されません。) 設置前に本機およびシステム全体のスピーカーのパラメーターを物理的に複製保存することをお勧めします。

## 各種ダウンロード

### 注意

- F/W アップデーター、および各種ソフトウェアをダウンロードする場合、dBTechnologies のウェブサイトでお客様のユーザー登録 (→ **5ページ**を参照) を行ってください。ユーザー登録を完了し、ログインを行わないとダウンロード先 (MY DOWNLOAD ページ) に移動しません。

## ソフトウェアの使用に関して

本ソフトウェアは、AEB INDUSTRIALE s.r.l. に帰属し、使用に際しては、同社の定める使用許諾条件によります。

## F/W アップデート

### 注意

- F/W アップデート中は、パソコンの電源を切らないでください。故障の原因になります。
- F/W アップデート後の電源投入で、本機に保存した各種設定が失われる場合があります。

本機の全ての機能を実際に使うためには、F/W を常に最新のものにしておくことをお勧めします。

dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページを定期的にチェックしてください。F/W の更新が合った場合は、以下の手順でアップデートすることができます。

## USB Burner Manager ソフトウェアのダウンロード

dBTechnologies のウェブサイトからログイン後、下記サイトから本ソフトウェアをダウンロードできます。

- <https://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

1. 上記のダウンロードページから "Software & Controllerr" を開いて、USB BURNER MANAGER ソフトウェア (zip 形式) をお使いのパソコンにダウンロードしてください。ダウンロード後、解凍してください。解凍後、実行ファイル (exe ファイル) を開いて、表示される手順に従ってインストールしてください。

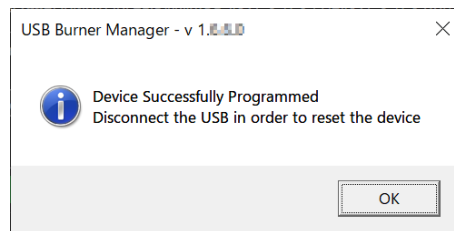
## F/W アップデートのダウンロード

2. 次に上記のダウンロードページから "VIO X" を開いて、上段の "Firmware" の列と対象となる "VIO X ###" (\*) 機種の中から、最新の F/W (zip 形式) をダウンロードしてください。ダウンロード後、解凍してください。
- \* "###" は、本機の型名になります。

## F/W アップデート

3. 本機の Attenuation ⑬ (入力感度調節ボリューム) の位置を [User/Service] の位置にして、パソコンを USB ケーブル (\*) (別売り社外品) で接続してください。本機の通信用 USB 端子は、7 ページ "各部の名称" を参照してください。
- \* 充電用 USB ケーブルは、使用できません。
4. [USB BURNER MANAGER] ソフトウェアを起動し、画面右上から、"File Opening..." を選択して、先程ダウンロードした F/W を選択してください。(お使いのシステムに最適がチェックします。)
5. "UPDATE" をクリックし、アップデート作業をスタートしてください。

6. アップデート作業が完了するとパソコンに下記画面を表示します。



以上で、アップデートは完了です。本機から USB ケーブルを外して、Attenuation ⑬ (入力感度調節ボリューム) を元位置に戻してください。

- USB Burner Manager ソフトウェアの取扱説明書については、dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、"Software & Controllerr" の項目を開いて、上段の "Manuals" の列から対象となる名前の PDF ファイルをダウンロードしてください。

## AURORA NET ソフトウェアのダウンロード

### 注意

ソフトウェアをダウンロード中は、パソコンの電源を切らないでください。故障の原因になります。

## ダウンロードとインストール方法

### ダウンロード

dBTechnologies のウェブサイトからログイン後、下記サイトから本ソフトウェアをダウンロードできます。

- <https://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

上記のダウンロードページから "Software&Controller" の項目を開いて、上段の "Software" の列から Windows または Mac OS のファイル (Zip 形式) を選択すると、MY DOWNLOAD ページに移動します。

そのページから目的のファイルを選択して、ファイル (Zip 形式) をダウンロードしてください。

### インストール

- Windows  
ダウンロードしたファイルをダブルクリックして、自己解凍型のファイルを開き、現れたフォルダー内の setup.exe ファイルを開いてください。
- Mac OS  
ダウンロードしたディスクイメージを開き、AURORA NET のアイコンをアプリケーションフォルダーにドラッグしてください。

## AURORA NET ソフトウェアの取扱説明書について

- 取扱説明書 (日本語版) は、以下の TASCAM のウェブサイトからダウンロードすることができます。  
[https://tascam.jp/jp/product/dbtechnologies\\_aurora\\_net/top](https://tascam.jp/jp/product/dbtechnologies_aurora_net/top)
- 最新版の取扱説明書 (英語版) については、dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、"Software & Controllerr" の項目を開いて、上段の "Manuals" の列から対象となる名前の PDF ファイルをダウンロードしてください。  
<https://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

## リモート機器の取扱説明書ダウンロード先

リモート機器の取扱説明書については、dBTechnologies のウェブサイトからのダウンロードページから、"Software & Controllerr" の項目を開いて、上段の "Manuals" の列から対象となる名前の PDF ファイルをダウンロードしてください。

- ダウンロードページ

<https://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

- RNet Control 2 取扱説明書  
"RNet CONTROL 2\_cod420120189\_Rev#.##-MAN.pdf"(\*)
- RNet Control 8 取扱説明書  
"RNET\_CONTROL8\_MAN\_REV#.##.pdf"(\*)

\* "##" は、リビジョン番号となります。

## アクセサリーのダウンロード先

各アクセサリーについては、下記 dBTechnologies 社のウェブサイトの中からご覧になれます。

- 設置用アクセサリーの取扱説明書ダウンロードページ

<https://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

上記の dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、"Installation" の項目を開いて、上段の "Manuals" の列から対象となる名前の PDF ファイルをダウンロードしてください。

- ケーブル類のダウンロードページ

各種ケーブルの形状やケーブル長を確認できます。

<https://www.dbtechnologies.com/en/products/accessories/cables/>

- 収納カバーのダウンロードページ

各種カバーの形状を確認できます。

<https://www.dbtechnologies.com/en/products/accessories/bags-covers/>

## 別売りアクセサリー

主な設置用アクセサリー名、形状

### ACCESSORIES



SA-35

スタンドアダプター  
D35mm



HK-6090

ホーンキット  
(60° × 90°)



HK-15100WG

ウェーブガイドキット  
(100° × 15°)



TB-M20

ネジ込み式 M20 ボルト



DRK-2

ダブルフライバー



DRK-1

フライバー



LP-5

リンクプレート



LP-3

リンククラスター  
60.90



LP-2

リンクアレイ  
ブラケット



SA-2X6

ポールマウント  
アダプター



VB-2X6

垂直取付ブラケット



HB-2X6

水平取付ブラケット



RC-1

レインカバー



FC-206

ファンクショナル  
カバー

---

## トラブルシューティング

---

### スピーカーの電源が入らない。

- 電源機器をチェックして電源が供給されている事を確認してください。
- Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付電源コードおよび Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付 LINK ケーブルの端子が、しっかり接続されて、時計回りにロックしているか確認してください。

### スピーカーの電源は入るが、音が出ない。

- 各入力端子が正しく接続されており、Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付電源コードおよび Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付 LINK ケーブルを使用されてるか、確認してください。
- ケーブル類に損傷がないか確認してください。
- 接続したミキサーなどの音源に電源が入っている状態で、オーディオ信号が出力されているか確認してください。
- 接続した機器や本機の入出力レベルを確認し、適正な位置に合わせてください。  
(本機の **Attenuation ⑬**(入力感度調節ボリューム)の場所は、7 ページ "**各部の名称**" を参照してください。)
- **RDNet** ネットワークに接続している場合は、**AURORA NET** ソフトウェア上で、**MUTE** 機能が無効になっていることを確認してください。  
(本機がリモートコントロールされている場合、本機のローカル設定は、バイパスされますので、注意してください。)

### スピーカーの音が歪んでいる。

- まず、接続した音源機器のボリュームを調整し、本機の **Attenuation ⑬**(入力感度調節ボリューム)を適正な値に調整してください。  
(本機の **Attenuation ⑬**(入力感度調節ボリューム)の場所は、7 ページ "**各部の名称**" を参照してください。)
- 使用しているケーブルに損傷がないか確認してください。損傷している場合は、交換してください。(不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。)
- システムに合った **HORN model ⑪**(ホーンモードスイッチ)設定が選択されているか確認してください。
- **RDNet** ネットワークに接続している場合は、**AURORA NET** ソフトウェアから、全てのパラメーターが適切な値に設定されていることを確認してください。  
(本機がリモートコントロールされている場合、本機のローカル設定は、バイパスされますので、注意してください。)



## 仕様

### 形式

VIO X206-60×90 : ウルトラコンパクト・アクティブスピーカー  
VIO X206-100×15 : ウルトラコンパクト・アクティブスピーカー

### スピーカーユニット

HF : 1インチ×1 (1.75インチ ボイス コイル採用)  
LF : 6.5インチ×2 (1.75インチ ボイス コイル採用)

### 指向性 (カバレッジ)

VIO X206-60×90 : 60° (H)×90° (V)  
VIO X206-100×15 : 100° (H)×15° (V)

### アンプ部

形式 : Digipro G3 クラス D  
RMS 出力 : 900 W (\*)  
ピーク出力 : 1800 W (\*)  
動作電圧 : 自動選択式  
冷却システム : 自然対流式

\* AC120V時での値になります。

### DSP 部

コントローラー : DSP 32 bit  
AD/DA 処理 : 24 bit/96 kHz  
フィルター処理 : FIR リニアフェーズフィルター  
コントロール : 入力感度調節 ボリューム 9種類 + ユーザー用、  
ホーンモードスイッチ、高域補正 スイッチ  
リミッター : ピーク、RMS、サーマル  
警告 LED : リミッター、信号入力、ステータス、電源オン  
状態 LED : リンク、アクティブ、リモートプリセット  
有効

### 周波数特性

−6 dB 時  
VIO X206-60×90 : 66 Hz - 19500 Hz  
VIO X206-100×15 : 66 Hz - 18000 Hz  
−10 dB 時  
VIO X206-60×90 : 70 Hz - 18000 Hz  
VIO X206-100×15 : 70 Hz - 17500 Hz

### クロスオーバー周波数 (24 dB/oct.)

1000 Hz

### 音圧レベル

最大 SPL : 131 dB  
(周波数/DSP プリセット設定による)

### 外部入力

Input 端子 : XLR 端子 (ソケット) ×1 (バランス)  
USB 端子 : B タイプ ×1  
RDNet 端子 : etherCON 端子 ×1 (Neutrik 社製)

### 外部出力

Link Output 端子 : XLR 端子 (プラグ) ×1 (バランス)  
電源 Link 端子 : powerCON TRUE1 端子 ×1 (Neutrik 社 製)  
(最大供給電流: 17.3 A/1900 W)  
RDNet 端子 : etherCON 端子 ×1 (Neutrik 社製)

## 一般

### 電源

電圧 : AC 100~240 V (自動切替式)、50/60 Hz  
電源端子 : Neutrik 社製 powerCON TRUE1 端子

### 注意

日本国内においては、AC100Vのみ動作保証となります。  
(それ以外の電圧で、使用しないでください。)

### 消費電流

1.26 A (100~120V時: 通常1/8出力時) \*1  
2.7 A (100~120V時: 最大1/3出力時) \*2

### 消費電力

19 W \*3

\*1: 通常の使用状況で、フルパワー出力の1/8の場合の消費電力  
(音楽再生中にクリッピングがほとんど発生しない状態)  
いかなる構成時でもこれを最小値としてください。

\*2: 通常の使用状況で、フルパワー出力の1/3の場合の消費電力  
(音楽再生中にクリッピングとリミッターの作動が頻繁に発生  
する状態)  
プロ設備やツアーの場合は、これらの値に従ってサイジング  
を決めてください。

\*3: 電源オンで入力信号がない時

### 突入電流

21.04 A

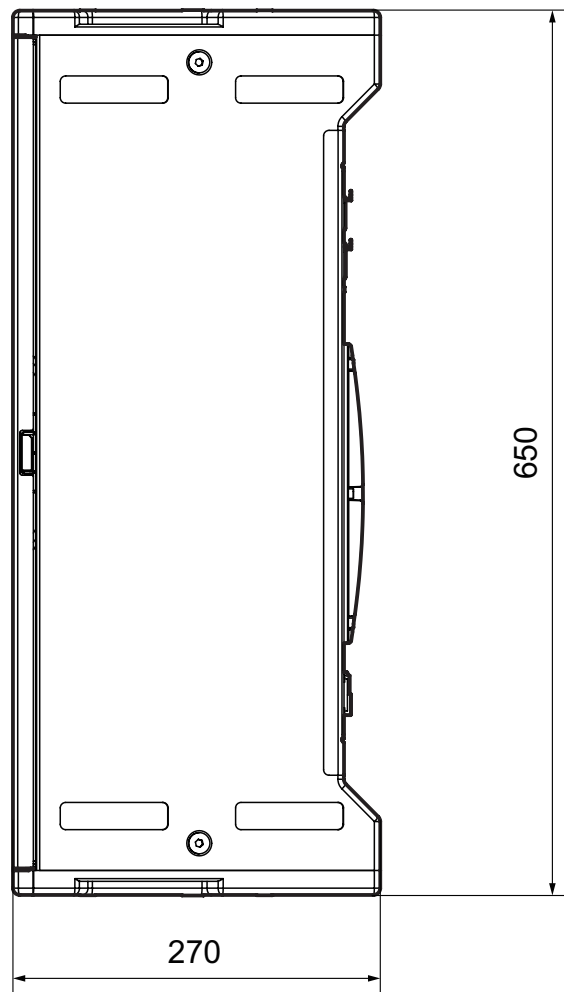
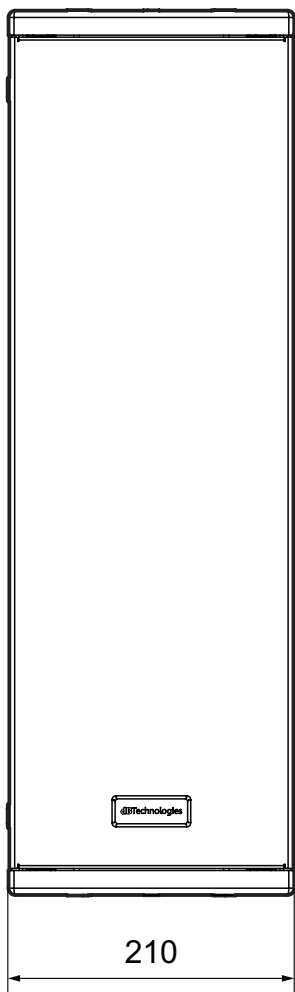
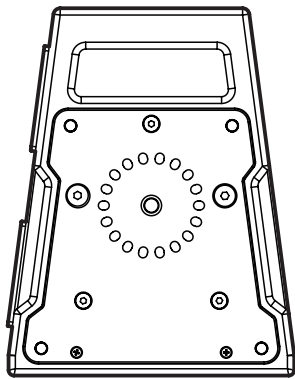
### 外形寸法

幅 × 高さ × 奥行き (突起部を含まず)  
210 × 650 × 270 mm

### 質量

17.3 kg

## 寸法図



- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。



## 無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。  
無償修理の対象は、お客様が日本国内において購入された日本国内向け当社製品に限定されます。
3. ご転居、ご贈答品などでお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
4. 次の場合には、保証期間内でも有償修理となります。
  - (1) ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
  - (2) お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
  - (3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
  - (4) 接続しているほかの機器に起因する故障および損傷

- (5) 業務上の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
- (6) メンテナンス
- (7) 本書の提示がない場合
- (8) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合

5. 本書は日本国内においてのみ有効です。  
This warranty is valid only in Japan.
6. 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

- \* この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。




# ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは


タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

- 電話 **042-356-9137** 携帯電話・PHS・IP 電話から
- ナビダイヤル  0570-000-809 一般電話から
- FAX **042-356-9185**

受付時間は、10:00～12:00/13:00～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858

- 電話 **04-2901-1033** 携帯電話・PHS・IP 電話から
- ナビダイヤル  0570-000-501 一般電話から
- FAX **04-2901-1036**

受付時間は、9:30～12:00 / 13:00～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

■住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Printed in Japan

1223 MA-3776A

## 保証書

|                  |  |     |
|------------------|--|-----|
| おおよび<br>形名<br>機番 | dBTechnologies<br>VIO X206-60 ×90 / VIO X206-100 ×15 |     |
| 保証期間             | 本体   |     |
| お買い上げ日           | 年 月 日  |     |
| お客様              | お名前  | ご住所 |
|                  | ご住所  |     |

この保証書は、本製品が正常に動作することを確認した上で発行するものです。お買い上げの日から左記の期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

|      |          |
|------|----------|
| 販売店  | <b>本</b> |
| 電話番号 |          |

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

ティアック修理センター

〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858

電話：0570-000-501/04-2901-1033

お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間中のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

